



発行日：2023年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第4回市民部会まとめの会を開催しました！

第4回市民部会まとめの会では、令和4年度の活動をふりかえるとともに、次年度の活動目標について話し合いました。また、安城市における冬水田んぼの取り組みについて、話題提供と話し合いを行いました。

日時：2023年1月27日（金）14:00～16:40
会議場所：豊田市崇化館交流館 2階 大会議室
参加者：18名（内オンライン参加4名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. 話題提供：冬水田んぼについて（エコネットあんじょう）

エコネットあんじょうの神谷氏・古居氏をお招きし、冬水田んぼの取り組みについて話題提供いただきました。話題提供いただいた主な内容を以下に記します。

- 冬水田んぼは13年前からはじめた。年間多い時では700人を越える方が来られ米作りを体験し、環境の大切さや必要な環境などについて、子供と親と一緒に考えている。
- 生物観察会を年2～3回やっている。一番多い時は72種の生物を確認しており、ダルマガエルやニホンメダカなど希少種の生息も確認されている。たくさんの生き物がいる生物多様性の田んぼ作りをしている。
- 自然菜園という、農薬を使わず、耕さず、草を取らずに自然で取れた野菜作りをしている。
- 雑草や虫、微生物が肥料を作っており、自然の摂理を利用した安全・安心な農業である。
- 耕さない、農薬を使わない、肥料を使わない米作り・野菜作りであることから安全・安心な農作物がとれるため、多くの方が参加してくれる。人と人との交流の場、子供たちの学びの場としても機能している。



2. 話し合い

(1) 今年度のふりかえり

今年度の活動目標に対する進捗状況について報告されました。主な報告事項を以下に記します。

- 流域全体に関わる課題に関する公開講座の実施については、流域圏の重要な生業である農業に着目し、「みどりの食料システム戦略」と「冬水田んぼ」を話題として取り上げ、勉強会を実施した。
- 地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーについては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、次年度に再度設定・実施することとした。
- 農業従事者や大学関係者など新たなつながりの形成については、東海農政局、四日市大学、人間環境大学、西三河南部生態系ネットワーク協議会、多摩川流域懇談会など、各部会との連携によりつながりを広げた。

(2) 流域連携イベントに関する成果

今年度を実施した流域連携イベントは、①第14回“いい川・いい川づくり”ワークショップ ②2022年矢作川感謝祭 ③第9回三河湾大感謝祭 ④中部のいい川WS で、矢作川流域圏懇談会の活動について情報発信を行いました。

(3) 次年度に向けた目標について

次年度の活動目標は今年度と同じとし、今後の市民部会の課題・役割として以下の事項が提示されました。

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりが薄い農業や工業の団体との関係構築



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●話題提供：冬水田んぼについて

- ・ 明治用水から田んぼに水を入れているが、他の田んぼから用水に入った農薬等の影響はどうか？(清水)
▶ 安城市はパイプライン化しているので、他の田んぼからの農薬の影響はない。明治用水上流の水や周辺耕作地の除草剤の影響についてはよくわからないが、我々の田んぼに悪影響が出たことはない。(神谷)
- ・ 田んぼに水が入っているか、入っていないかで生き物が全く変わってくる。昔の休耕田の時は、何も作っていないくても水が入っていた。愛知県のコウノトリ飛来地に行ってきたが、やはり水が入っていた。(高橋)
- ・ 水を張って耕さないことで、どうして土がよくなるのかを教えてください。(山路)
▶ イネ刈りをやるとイネの根が残る。そこから空気が入る。草があれば、草から空気が根のほうに行く。(古居)
- ・ 冬水田んぼに多くの人に来てくれるのはよいが、営農として定着させることの難しさがあるのかと思う。(光岡)
- ・ 安城では、子ども達への教育の一環として、小学校単位で田んぼをやるというシステムがある。(古居)
- ・ 水田にはネオニコチノイド系農薬やマイクロプラスチック肥料被覆殻の問題もある。人間を含めた生物へのリスクを認識しないと変わっていかない。流域圏懇談会が公開講座で問題提起したことは非常に大事なことだと思う。(近藤)
- ・ CO₂をどうするかという問題で、手っ取り早いのは土の中にもう一度炭素を戻すことだと思う。(井上)
▶ CO₂を農地に閉じ込めれば、CO₂問題・地球温暖化問題は一気に解決すると思う。(神谷)
- ・ 昨年秋から農業ルネッサンスということでシンポジウムをやった。農業ルネッサンスにより、安全・安心な農業を進めていく新たな計画が進んでいる。(沖)
- ・ 公開講座、勉強会、冬水田んぼ。流域圏懇談会の中で農業の問題を進めていけるのではと期待している。(沖)
- ・ 米が単なる商品ではなく、人が食べる大事な食べ物として作られることが重要。冬水田んぼとかいろんな工夫をして、多くの人々が田んぼに携わって米が作られる世の中になれば持続可能な社会になるのではないと思う。(山本薫)

●話し合い：今年度のふりかえり・次年度に向けた目標

- ・ 市民部会であげられたいくつかの公開講座のテーマについて、進捗状況を記載するほうがよい。部会間に横串を刺すという意味で提案したこと自体に大きな意味がある。(近藤)
▶ 横串を刺すという役割が市民部会にあること。この部分がこれから大事だと思う。(三ツ松)
▶ 部会単独でやっていくのが難しい場合は、部会間での連携・協働を進めていけることが提案できればよい。(光岡)
▶ 市民部会の役割の中で、「地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築」「10年間で新たに増えてきた課題や問題の明確化」というのが重要と考える。(近藤)
- ・ 市民部会としては、山・川・海に向けて何をやっていくのかがまだ明確になっていない。各部会が何をやっているのかを知るという意味で、バस्तアーは重要な位置づけになると思う。(光岡)
▶ 10年間やってきて課題が大きく変わってきているが、それを共有できていないというのがわかってきた。(近藤)
- ・ 流域圏懇談会とつながりたいという新しい人たちに、具体的に、なぜそこに参加して、何をすべきかを明確にしていけないと、なかなか参加できないと思う。そのあたりを具体的に必要がある。(近藤)
- ・ 農業関係を巻き込むことで進んでいるが、工業関係も巻き込まないといろんな問題は解決しないと思う。(高橋)
- ・ トヨタなど企業も矢作川に関わっているので、農業と同じように企業を巻き込むとよいと思う。(光岡・高橋)
▶ 企業を巻き込むことはこれからの課題。奈佐の浜プロジェクトも企業参加を一つのテーマにしている。(近藤)
▶ 日本を代表する企業が流域にあるので、いろいろ協力してやれたら、今問題になっていることも解決の糸口が見つかるのではないと思う。(高橋)
▶ 企業参加について、どういうことを提案していけばよいかを明確にする必要があると思う。(光岡)
- ・ 矢作川浄化センターから窒素・リンを入れた場合、赤潮・青潮の発生はどうかという議論がない。窒素・リンだけ出してこれというについては若干懐疑的。(井上)
▶ 三河湾ではアサリが採れなくなり、漁業関係がかなり悪くなってきた。綺麗な海・透き通った海でやってきたが、「海清ければ魚棲まず」でアサリも採れなくなった。(高橋)
- ・ 伊勢・三河湾では浅場・干潟がほとんど埋められてしまい、必要な干潟や浅場がなくなってしまう。浅場・干潟は、海を浄化したり、栄養塩を分解する一番良いところ。海藻が増えれば二酸化炭素も吸収される。(高橋)
- ・ 湧水の話があまり出ないが、降った雨がちゃんと地下に入って湧いてくると、栄養塩が豊かできれいな水が出てくる。湧水の中の栄養塩は重要と思うが、湧水量が減少している。(井上)
- ・ 矢作川の水の量が、1970年代に比べ大きく減少している。矢作川の中の砂の量も含めて、高水敷ができてから流れて来る水の量が減少した。(高橋)

今後の予定

- 第12回全体会議 (日時) 令和5年2月17日(金) 13:30~16:30
会場：株式会社ビレッジ開発 3階大会議室(愛知県安城市三河安城本町2-7-13)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

